

Q 複式学級とは。
A 2つの学年を1つの学級に編制することで、一年生を含む時は2つの学年で合計8人まで、それ以外は2つの学年で合計16人までと定められている。

Q 近隣市・町の現状が知りたい。
A 近隣の自治体でも学校の再編が行なわれている。熊谷市、行田市では一部の小学校を統合し、新校を設置している。



たか ひろ ゆき
高田 博之



映像は
こちらから

A 現在のところ適正規模・配置の策定には至っていない

Q 小学校児童数の減少対策をききたい



大寄小学校

Q 市内で一番児童の少ない大寄小学校では常に統合とかの噂があるが。
A 令和5年度の学校運営協議会で地域の現状や望ましい学校のあり方に関する意見をいただき、状況の把握に努めているが、方針の策定には至っていない。

Q 学習する。深谷市では当面の間は複式学級を必要とする小学校はない。
A 市内で一番児童の少ない大寄小学校では常に統合とかの噂があるが、令和5年度の学校運営協議会で地域の現状や望ましい学校のあり方に関する意見をいただき、状況の把握に努めているが、方針の策定には至っていない。

議案等の審議結果

6月定例会に提出された議案と審議結果は次のとおりです。

◆市長提案

報告番号	件名	審議結果
第1号	専決処分の承認を求めることについて(国民健康保険税条例の一部改正)	承認
第2号	専決処分の承認を求めることについて(税条例及び都市計画税条例の一部改正)	承認
第3号	専決処分の承認を求めることについて(個人番号の利用に関する条例の一部改正)	承認

議案番号	件名	審議結果
第31号	深谷市家庭の保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例	可決
第32号	財産の取得について(水槽付消防ポンプ自動車)	可決

◆議員提案

議案番号	件名	審議結果
第3号	パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦を求める意見書	可決

議案番号	件名	審議結果
第33号	財産の取得について(高規格救急自動車)	可決
第34号	令和6年度深谷市一般会計補正予算(第2号)	可決
第35号	令和6年度深谷市一般会計補正予算(第3号)	可決
第36号	令和6年度深谷市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)	可決
第37号	深谷市監査委員の選任につき同意を求めることについて	同意
第38号 ～ 第61号	深谷市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて	同意

◆請願

請願番号	件名	審議結果
第2号	パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦を求める意見書の提出についての請願	採択

全会一致とならなかった提出案件審議結果と各議員の賛否一覧

【○：賛成、×：反対】

議案等	深谷同志会																審議結果
	田島秀興	岡仁	柿澤祐介	福島秀樹	今井慶一郎	湯本哲昭	八須由憲	清水健一	角田英夫	富田義徳	茂田勝	永田一郎	高田博之	坂本博	五間くみ子	佐久間奈々	
令和6年度深谷市一般会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	可決
パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦を求める意見書の提出についての請願	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	採択
パレスチナ自治区ガザ地区における即時停戦を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

※議長は可否同数のみ採決に参加します。



さ く ま な な
佐久間 奈々



映像は
こちらから

A 避難所施設のトイレはスフィア基準を満たしている

Q 避難所のトイレはスフィア基準を満たせるか

Q 研究者によると、災害後の水洗トイレは使えない事を前提に備えるべきとの提言がある。発災後に即必要となる携帯トイレや簡易トイレの備蓄は十分なのか伺う。
A 携帯トイレが3万7千枚、簡易トイレは131基の備蓄があるが、十分ではないと認識している。今後管理計画等、きちんと定めていく。

Q 風雨災害時のペット受け入れ可能施設数と受け入れ可能頭数を伺う。
A 使用可能な施設は34か所で、避難者とは別スペースの受け入れが基本である。

Q そのペットスペースは屋内か。屋外である。



深谷市で備蓄されているパーテーション

Q 教育は社会に偏在する。まちづくりに教育を絡めることは。
A 民間を含め、子供たちの支援者が色々と努力をしていたいていいる。引き続き、私たちの経験を生かしながら、一人でも多くの子供が笑顔になれるような学校にしていきたい。

●「地域計画」を機能させるために
地域計画策定スケジュールは。

A 懇談会、教委による民間施設の訪問などで相互に連携

Q 不登校支援での民間施設・機関との連携は



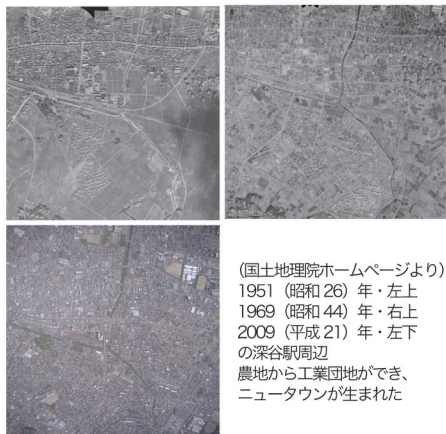
こ ば や し ま こ と
小林 真



映像は
こちらから

Q 不登校に苦しんだ人々を中心に始まった支援は、内容が多様化しつつ増えている。協働先、助っ人として活用する方策は。
A 不登校の子供の心理的状況は日々変化している。学校は様々な課題を抱えているが、何かあった時、子供が持つロープの先をしつかりと握って離さないでいたい。民間の支援者とも縦横に連携しながら進めたい。

Q 後継者不足はじめ農業の諸問題、流通、消費など多角的な取組が必要。食と農、市独自の取組は。
A 農産物のブランド推進、アグリテックや、交流施設「アグリコ」などを活用。



(国土地理院ホームページより)
1951(昭和26)年・左上
1969(昭和44)年・右上
2009(平成21)年・左下
の深谷駅周辺
農地から工業団地ができ、
ニュータウンが生まれた